

広く展開する地域社会は、それぞれ人と土地との一つのまとまりをもって営まれ、おのおの異なった地域性がある。しかもそれは、政治的組織体として一定領域の広がりをもったもので、それらの異なった政治的組織体の間には「境界」が設けられている。

ラツツェルによれば、境界とは異なった内容の地域間、あるいは統一的な地域間の「さかい」を現しているとしている。

この「さかい」は、政治的境界であり、一つの政治地域の「はて」または「きわ」で、他の政治地域のそれと相接しているが、この場合の政治地域は一般に国家が考えられている。また、一つの主権国家内の州・都道府県・郡・市町村や、古くは里（郷）・荘園・藩・国などを支配している土地の限界、その相互間の境界が地理学で言う政治的境界であり、一定の政治的場所を「くぎる」意味の「政治区画」でもある。

一つの政治区画の実態を把握するためには、いくつかの指標を設けて検討することも大切であり、その場合ハーツホーンによれば、地域社会の伝統・構造・機能に観点をおくとしている。

境界にもフロンティア (Frontier) 的なもの、すなわちマウルの境界総合帯 (Grenzgürtel) 的な

ものから、各政治組織体相互間の支配がしだいに確立して行くに従いバンダリー(Boundary)化して行く傾向もあり、ここに歴史地理学が重視される所以がある。

わが国の歴史を振り返ってみても、封建時代には藩界・国界などについては、ヨーロッパ人の考え方に劣らない優れたものがあることは、岩田孝三先生の「境界政治地理」などの著者からも理解される。

このような意味からも「政治区画の歴史地理」刊行は、誠に意義深く時宜に適したもので、しかもわが国歴史地理学会の諸権威による優れた研究成果を集めたものとして推奨しうる。

なお、本書上梓にあたっては財団法人畠山文化財団から多額の助成金を賜わったことを付記して謝意を表す。

一九七五年二月

太田晃舜